

2001  
1月1日～2日

**メンバー**

大塚賢一 45才  
ちか子 43才

**個人装備**

・12本爪アイゼン・ピッケル・  
8環・ハーネス・ストック・ア  
ウター上下・フリース上下・  
シュラフ or カバー・テルモ  
ス・行動食、etc

**共同装備**

・8mm ロープ20m・テープスリング・デ  
イジー・ピナ・プーリー・ツェルト・  
ツェルトマット・エマージェンシーキッ  
ト・食料2食・バーナー・ガス・高度計・  
磁石・1/2500 地図、etc

21世紀の幕開けは雪山登山でスタート  
しようと常々計画していた。  
当初は大山登山を計画してメンバーに呼  
びかけたがそれぞれが用事があるために  
中止。



**Central ALPS  
Mountaineering**

**天候**

1日>晴れ・強風、  
2日>曇り・ガス・強風・ホ  
ワイトアウト寸前・膝上～  
腰ラッセル

**気温**

- 10度～ - 20度

個人的に行きたかった中央  
アルプスに計画を練り直す。  
木曾駒ヶ岳2956mからの御来光は、富士  
山から上がってくるので有名である。

「俺は今年の正月は中央アルプスで迎  
えるから・・・」と、ちか子に言うのと  
彼女が「私も行きたい」との返事であ  
る。私は「・・・・」、言葉も出ないま  
まであった。しかし、夫婦2人で3000m  
の山中で正月を迎えるのも劇的なスター  
トであると思い早速計画を練り始める。



雪煙を舞い上げ怒濤のように吠え狂う宝剣岳

最初の計画は単独登山を計画していたのでテント泊を決め込んでいたが、雪山初心者の彼女にとってはあまりにも過酷なので、年末年始に営業している宝剣山荘に早速予約を入れる。正月料金で一泊二食で1人8500円であった。

宝剣山荘にたどり着くまでに乗越浄土手前の千畳カールの核心部である斜度45度以上の雪壁を登って行かねばならないために、彼女のためのエマーゼンシーギアに頭を悩ませた。そこで8mmロープ20m、8環2ヶ、テープスリング5本、ハーネス2ヶ、デイジーチェーン1ヶ、カラビナ4ヶ、プリー1ヶと最小限に留め、コンティニアスもシュミレートして体に叩き込んだ。

### 31日 曇

彼女が午前中仕事の為に15時に我が家を出発。道路事情は31日とあってスムーズに駒ヶ根SAまで4時間半で行けた。今日はこのSAでカウントダウンで



南アルプス連峰を背に

ある。食事を済ませ、紅白歌合戦が写っているテレビの下で雪山のグラビアを見てくつろぐ。車からウイスキーを持ち出し無料のお湯を注いでお湯割り・・・、つまみはSAになんでも売っているので事欠かない。しか



スタート前の記念写真

ケルが無ければ入山させてもらえないのだ。NHKや一般客が初日の出を撮影に来ていたがどうも拝めなかったようだ。

一歩外へ踏み出すと快晴ではあるがものすごい強風である、早速フル装備に身

し家族連れやボーダーがなんと多いことか、みな考えることは同じである。カウントダウンが始まり21世紀の幕開けである、周りの人たちで乾杯。

車に移動し、Hight Aceの後部で足を伸ばして快適睡眠に入る。

### 1日 晴

7時頃目ざめると、昨夜の曇っていた空が見事に晴れ渡っている。ここから見える中央アルプスの山並みが朝日に照らし出され金色に染まり眩しいほどに輝いている、しかし千畳敷上部は残念ながらガスに包まれていた。

850円のバイキング料理で腹ごしらえをし、セルフのコーヒーと緑茶をテルモスに一杯にして準備は万端。

バス、ロープウェイと乗り継ぎ日本最高度駅の2612mにあつという間に着く。出口でパトロールに入念な道具チェックを受け、事前に作成していた登山届けを提出する、最低条件の出っ歯アイゼとピッ



カール核心部では四つん這いになり

を固める。

眼前に迫る白銀の千疊敷カールをひるがえし、荒々しい岩峰に身を固める宝剣岳。ときおり強風で雪煙がまるで生きているかのように縦横無尽に舞い一層迫力を増している。

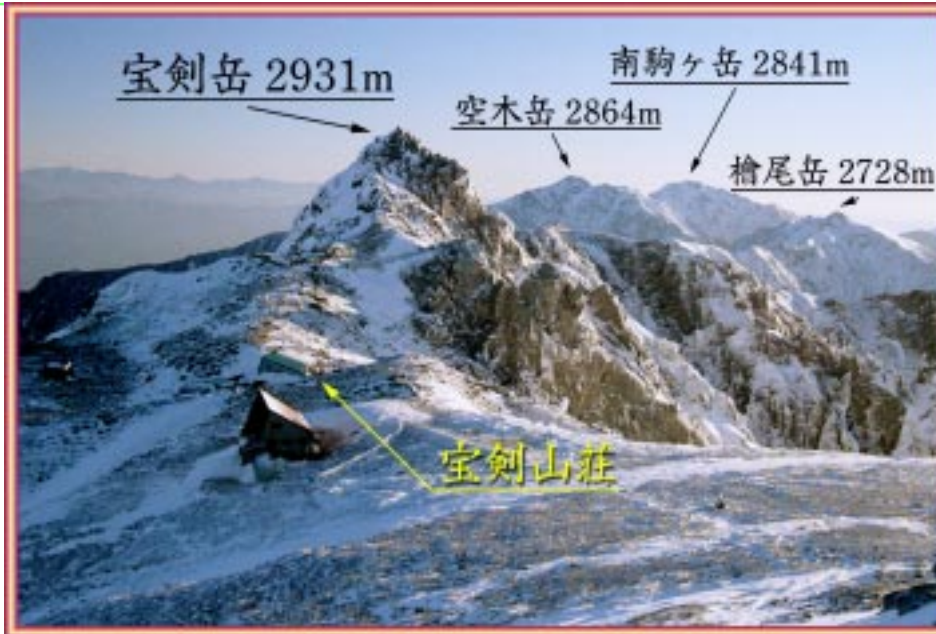
彼女にピッケルワーク、アイゼンワークをホテル前で講習する、素直なもので何一つ文句も言わず忠実にこなしてくれるので心強い。

**11:03 スタート 風速10m~30m  
- 16度**

先行パーティーのトレースにはあるが、ものすごい強風のために無いに等しい。地図、磁石、高度計で現在位置の確認をとる。

天候は雲一つない快晴なので東後方に南アルプス、富士山を背にゆっくりゆっくり確実に彼女のペースを保ちながら登っていく。素晴らしい景色である・・・ここへ来ている者に与えられた最高のお年玉である。

カール直下の核心部に迫るとさすがに疲れが出たのか、高山病にかかったのか、はたまたバイキング料理を食べ過ぎたのか、二~三度嘔吐していた。「大丈夫かっ!、時間は充



中岳山頂より中央アルプス連峰



天狗岩と南駒ヶ岳

分あるから休みながら登ろう」と励ますが、なにせ核心部での強風なので、耐風姿勢をとっていても体が揺さぶられて小さな雪片が容赦なしに機関銃のように飛んでくる。途中しきりに一眼レフのシャッターを切るが、寒さのせいでオートフォーカスが作動しない、マニュアルに切り替えるがオーバー手袋とゴーグルなのでピントを合わせるのに一苦労である。

核心部の雪の状態はカチカチなのでアイゼンの前爪、ピッケルの先を確実に打ち込むとよく刺さるので、これくらいではまだロープワークは必要ないと思い、風のリズム読んで少しずつ少しずつ常に耐風姿勢をとりながら確実に登っていく。

**13:14 乗越浄土 2860 m - 18度**

稜線上の乗越浄土にたどり着くと、さすが稜線というだけあって真っ直ぐ立ってられないほどの強風である、しかし天気はピーカンなので写真からはそのド迫力は伝わってこない。

**13:43 宝剣山荘着 2870 m**

宝剣山荘手前にテントが二張り、この強風と寒さに耐えながらも頑

張っていた。

小屋に着くと登山者が15名ほど暖をとっていた。この小屋に泊まるのは2度目である、2年前の5月に来たときも確か20名ほどだったように思う。ピークの夏はここへ160名が宿泊してごった返すのだから想像もつかない。

### 15:30 中岳山頂 2925 m

冬山の天候は想像を遙かに越えるくらい巡るましく変わるので、ほどよく暖をとり身体も落ちついてきたので、今日のうちに中岳へと足を運ぶ。

だれ一人としていない稜線を凍った雪にアイゼンを食い込ませて、2人だけの世界を堪能する。

5月よりも雪の量はまだまだ少ないけれど、それなりに味のある世界である。

中岳山頂からは、北に木曾駒ヶ岳、その遙か北方に穂高連峰、西に御嶽山、南に宝剣岳、三ノ沢岳、空木岳、南駒ヶ岳、東に伊那前岳、その遙か東方に南アルプス連峰、富士山と360度の大パノラマである。

ちか子も見もの、する事すべてが初めてなので顔からそのなんともいえない喜びが伝わってくる。

中央アルプスの最高峰木曾駒ヶ岳 2956 mにも足を伸ばしたかったが、時間も時間なので小屋へ引き返すことにした。



中岳山頂 2925m の祠で登山祈願

山小屋の夕食には、各テーブルにビールが振る舞われ食前酒のワインをたしなみ、鍋料理で豪華千万である。なんでも昨日の大晦日はすき焼きだったそうである。おかずの品数の多さに御飯が食べられず持参のウイスキーがカラになってしまった。

小屋の就寝部屋では暖房もよくきいていて?、-2度で快適睡眠となるが、夜中ものすごい風の音で何度も何度も目が覚める。テント組は飛ばされていないだろうか、心配であった。

### 2日 強風 ホワイトアウト寸前 -20

度

思っていたとおり天候が急変していた。やはり厳冬期の3000 mである。

朝はこれまた豪華料理でおせち料理が出た、振る舞い酒の提供もあり外の悪天候も少し忘れてしまい、朝食をゆっくりといただいた。

### 9:05 下山開始

一步外へ出ると、ものすごい強風でホワイトアウト寸前である。地図、磁石、高度をしっかりと合わせてフル装備に身を固めて下山開始する。

彼女にあとで聞いた話したが10 mも歩かないうちに強風にあおられ転倒して起きあ



小屋でくつろぐ

がれなかった、そこで「ケンちゃ～んっ！」と何度も叫んだそうだが風に遮られ私には全く聞こえなかった。

カール直下に差し掛かると、昨日とは逆の強風で真下から雪を舞い上がらせている。2人とも一瞬のミスでゴーグルに曇りが生じ、アッという間に凍りついてしまった。視界が全くゼロになりゴーグルを外すが雪が下から容赦なく吹き付けるので目も開けていられない状態である。積雪は50cmはあるが、幸いにもパウダーなので昨日の急斜面がウソのように緩やかになっている。

膝、時には腰までラッセルしながらの下山である。先行パーティーのトレースはあるもののホワイトアウト寸前なのであてには出来ない。自分の地図、磁石、高度を絶えず確認しながらゆっくりゆっくりと降りていく。彼女は足元が全く見えないせいもありスパッツにアイゼンを引っかけて一回転したそうだが、幸いにもフカフカパウダーでよかった。

高度200mほど下ると核心部も過ぎて視界30mくらいになって先行パーティーの姿も見えだし、なんとか周りの景色も確認できるようになった、ここまで降りれば大丈夫



乗越浄土にて



千疊敷カール

だ！。

緊張の糸がほぐれて、お互いに顔を見合わせると2人とも顔面にツララを作りながらも笑みがこぼれると同時に「やったーっ！」という気持ちがこみ上げてきた。

駐車場に着くと車が雪だるまになっていた。

二日間の疲れを癒すために麓の「こまくさの湯」に浸かり余韻をたしなんで帰路につく。

二人にとって21世紀幕開けは素晴らしい、とんでもなく強烈な印象に残るポジティブなスタートとなった。

その人の話は その人の物語  
生きすぎた者も 急いでいく者も  
僕は今日もまた 朝焼けに乗りお  
くれ  
からだに心に 一日を刻み込む  
僕の考えていた事は 自分を自由に  
させる事